

平成28年度第2回スポーツ部会 議事概要

日時：平成28年5月30日（月）9:00～11:00

場所：大阪府庁本館5階 正庁の間

出席委員：相原部会長、巽専門委員、藤本専門委員

〔開会〕

〔各委員からの提案〕

■巽専門委員

○具体的な提案は「スポーツと親和性が高い都市の創造」「人材育成（教育）」「産（民）官学の連携」の3つ。

○「スポーツと親和性が高い都市の創造」は、住民、ビジターを含めたすべての方が、その方に合ったスポーツに参画する機会のある都市を作る。そのためのバリアフリーの取組みや、各種イベントなどを行い、すべての方がスポーツを「する」「見る」「支える」街にするというもの。

○最も高い参加率を誇るスポーツ活動というのは、サッカーとか野球とかではなくて、一番身軽にできるウォーキングや散歩というようなデータが出ている。どこでもいつでもウォーキング、散歩ができる環境を拡充して欲しい。

○「人材育成（教育）」では、トップアスリートが小中学生に対して自らの体験談を語る「夢授業」の取組みに加え、子どもたちのレベル（小・中高）やニーズに応じ、オリンピック精神やフェアプレイ等、オリンピズムの理想を伝えていくとともに、オリンピックムーブメントの教育冊子等も作成し配布する。また、将来スポーツ指導者となる府内の大学の体育学部系の大学生を対象に、トップアスリートが行う単位認定が可能な集中講座を開講する。

○「産（民）官学の連携」は、アスリートネットワークが産（民）官学の調整役となり、府民のスポーツ実施率向上や健康づくりに携わりたいというもの。

■藤本専門委員

○「大阪スポーツ都市ブランド」構築に向け、4つの柱のもとに以下の7つの都市をイメージ。柱の一つは国際的に発信できるスポーツイベントというものが非常に充実している都市という意味で、国際プロスポーツ都市。2つ目が大阪独自の文化を活かしたものをいかにスポーツに落とし込んでいくかという視点からスポーツ魅力創造都市。3つ目がスポーツ健康フレンドリー都市。4つ目がスポーツ教育・人材育成都市。

○アジアの未来をリードするくらいの気持ちで、ジュニア・ユース世代をターゲットとした「国際スポーツイベント開催都市」、大阪の人気プロスポーツを観光資源としてアジアをはじめとする海外に発信する「プロスポーツ都市」、大阪城を大阪の象徴的な場所と捉えてスポーツを企画する「キャッ

スルススポーツ都市」、水都大阪というブランドイメージを意識した「ウォータースポーツ都市」、運動による健康や医療費等のデータを蓄積することで中高年の運動参加の促進等を図る「スポーツ健康都市」、校庭の芝生化やJETプログラム、JICAの経験者を活用する「スポーツフレンドリー都市」、府民のスポーツへの理解を進めることで大阪をスポーツ教育都市として発信し、それを支え実行し発展させる人材を育成する「スポーツ教育&人材育成都市」を提案する。

○そしてそのための環境整備として、実際の事業を進めるあるいは大阪観光局等と連携して観光都市魅力につなげる組織として「大阪スポーツコミッション」の設立、スポーツに関するデータを蓄積し研究する「大阪スポーツ科学会議」の設立、民が大阪スポーツブランドを発信するためのソーシャルメディア環境の整備を行い、さらにスポーツの連携大学院を作り、それらと有機的に結びつけることで、互いの人材の輩出確保、情報の提供活用を行い、大阪のスポーツブランド構築や、ひいては大阪の活性化につなげていく。

■相原部会長

○2019年からのゴールデンイヤーに向け、それらを一過性のイベントにせずそこからロンドンのように大きく飛躍するため、2019年のラグビーW杯までのこれからの3年間でどのような準備が必要かを考えて実行に移さなければいけない。

○長期間ネーミングライツや寄付に見られるように、企業の社会貢献を促すような仕組みを構築すべき。

〔意見交換〕

■藤本専門委員

○出てきたアイデアを、国の枠組みや既存の組織の中にどう組み込んでいくのかということになる。

■巽専門委員

○ラグビーに着目して、もっと子どもたちをはじめとして機運を盛り上げていくべき。

■藤本専門委員

○ソーシャルメディアの発展は早い。スポーツビジネスも新しい動きについていけないといけない。

〔目指すべき都市像とキーワードについて〕

○資料2-1により、目指すべき都市像とキーワードについて事務局から説明

⇒事務局説明に対する委員意見

■藤本専門委員

○この2つの都市像だと目新しさが無いように思う。もう少し踏み込むべきではないか。

〔KPIについて〕

○資料3-1により、KPIについて事務局から説明

⇒事務局説明に対する委員意見

■藤本専門委員

○これらの指標は必要だと考えるが、都市魅力戦略推進会議のスポーツ部会として出す指標としては、やはりもう少し何か必要ではないか。

■相原部会長

○これから議論が進めば指標の追加も必要になるかもしれないが、現段階での議論ではこの指標になる。

■巽専門委員

○成人の週 1 回以上のスポーツ実施率となっているが、大阪では子どもの体力が低下しているので、むしろ子どもの健康と体力の向上を高める指標を設定すべき。

■藤本専門委員

○沖縄県では、外国人に空港でインタビュー調査をしたと聞いている。関空の数値もあるのであれば使うべき。

■相原部会長

○指標の有無を確認して再考しよう。事務局は確認のうえ、戦略素案への落とし込みの検討を。

〔今後のスケジュール〕

■相原部会長

○次回は 7 月 4 日（月）9:00 から。

○今回懸案になった目指すべき都市像とKPIについては、また調整させてもらいたい。

〔閉会〕